

2015年度 研究調査事業実績報告書

1. [研究調査テーマ名]

モータースポーツ・アーカイブズ公開活動

2. [目的] モータースポーツ関連の技術、文化に関する資料等の保存の重要性を啓蒙し、メーカー各社や個人、団体個々が保存活動を行うことを推進する。更にはそれらの公開を働きかけることにより、消滅の恐れのある技術情報を保存、公開する。これにより、モータースポーツひいては自動車技術への興味を喚起する。

3. [本研究調査事業の内容]

- 3月のシンポジウム
- テーマの策定：4～6月に主テーマを策定。どの時期のこういった項目を取り上げるか。
- 具体的活動内容の策定：6～7月に調査、インタビュー対象を決定、担当を割り当てる。
- 具体的な調査活動：7～1月に実施。
- 冊子編集作業：10～3月に編集と発行準備。
- 冊子発行：3月発行。（3月のシンポジウムでの配布）
- 次号冊子への申し送り：課題、提案、読者からのフィードバック等の整理。

4. [本研究調査事業の成果]

成果について具体的にご記入ください。

一昨年、昨年に引き続きインタビューを中心としたアーカイブズ冊子を発行した。

(1) 第3号は、これまでのメーカー系のアーカイブズから視点を変え、エンジンチューナ特集とした。

チューナの方々は、レースエンジンの「ものづくり」を支えてきているが、その存在や活動は広くは知られていない。

(2) 松浦賢氏インタビュー：1960年代からレースに関わり、さまざまなレースエンジンのチューニングを行い、ヤマハのフォーミュラレースエンジン開発にもかかわってきている。

(3) 今井修氏インタビュー：1970年代はじめからレースエンジンのチューニングを行い、常にモータースポーツと共にあり、その開発秘話などを紹介していただいた。

(4) 全日本学生フォーミュラレース2015年優勝のGraz工科大学チームの紹介：優勝に至るチーム体制や開発プロセスについて紹介していただいた。

(5) 本委員会活動報告：委員会活動を、モータースポーツシンポジウム内容を中心に紹介した。

(6) 多摩川スピードウェイ記録保存活動の紹介：1936年～38年に多摩川に設けられ、大小国内メーカーや海外メーカーのレース車が競争していた歴史発掘活動を紹介した。

5. 委員会活動への影響

今回の研究調査において委員会活動へ影響した点についてご記入ください。

(1) インタビューおよびそのまとめを冊子記事として発行することにより、モータースポーツ部門委員会参加メーカー以外のモータースポーツ活動を知るきっかけを作ることができた。

(2) インタビュー記事や、モータースポーツシンポジウム紹介記事を冊子で公開、また、メディアに画像を提供することにより、幅広い人に部門委員会活動を紹介することができ、モータースポーツ、ひいては自動車技術への興味を喚起することができた。

(3) モータースポーツシンポジウムの講演、ディスカッション、展示物の記録映像は、貴重なものであり、管理し、今後公開のための手順を作ることにより、広く自動車技術会会員の資産とすることを旨とする活動を進めたい。

6. 今回の研究調査結果について、発表方法を下記より選択してください（複数回答可）。

- 会誌への記事掲載（__年__月号を予定）
- 春季大会オーガナイズドセッションでの発表（____年春季大会を予定）
- 春季大会フォーラムでの発表（____年春季大会を予定）
- シンポジウムでの発表（__年__月を予定）
- 出版物の発行（印刷物、CD-ROM）（2016年__月頃の発行を予定）
- その他（具体的にご記入ください）

2016年5月開催の自動車技術会春季大会会場で、今回発行した冊子3号を配布。

7. 受給額と執行額

受給総額	160,000 円
執行総額	160,000 円

費目	使用例	実際の使用内容	予算額(円)	執行額(円)
印刷製本費	資料印刷費、複写費、編集外注費、CD製作費など	冊子第1号の増刷 冊子第3号の印刷	83,000	160,000
諸謝金	原稿料		30,000	
通信運搬費	運送用レンタカー代、宅配料		7,000	
委託費	外部への委託費		20,000	
開発費	システム開発費			
資料購入費	参考資料、書籍等購入費		5,000	
物品購入費	実験に必要な部品類など			
消耗品費	燃料代、実験に必要な消耗品類			
臨時雇用費	アルバイト代			
その他			15,000	
合計(円)			160,000	160,000

以上